



懸案事項の老朽化した大和中学校の改築工事も安全・安心な学校づくり交付金や合併特例債を活用して着工することが出来、12月には、完成する運びとなっております。  
【写真／年内完成を目指して、改築工事中の大和中学校】

開催され、本市においても、ストーン文化フェスティバルが開催されますので、様々な形で本文化圏が持つ潜在的な観光価値をPRしてまいります。

### 快適で潤いのある生活環境づくり

安全防災対策の充実については、災害に強いまちづくりを進めるために、地域防災計画に基づき、防災意識の高揚や災害時における行動力の強化に努めてまいります。また、防災施設などを年次計画に沿って整備を図るとともに、自主防災組織の結成および充実強化に対する支援をしてまいります。防犯対策については、自主的な防犯パトロール活動や防犯灯の設置・管理に対する助成を行うとともに、防犯組織の結成を促進し、警

察や学校・地域と連携した安心・安全なまちづくりに努めてまいります。交通安全対策の推進については、交通安全施設整備を図るとともに、市民の皆様の交通安全意識の高揚に努めてまいります。

次に、都市基盤の整備についてですが、まちづくり交付金事業も5か年事業の最終年度を迎え、岩瀬駅前、広場整備と併せた電線地中化による道路整備を進めてまいります。また、真壁地区については、歴史的まち並みを活かした整備や岩瀬地区と同様、電線地中化を進め、まち並み散策がしやすい環境づくりに努めてまいります。また、北関東自動車道 桜川・筑西IC(チェンジ)が、本年4月12日に開通の運びとなることから、長方工業専用地域の用途見直しやIC周辺などの整備方針の具体的な検討を行ってまいります。

居住環境の整備については、継続事業の御領西団地が完成し、新しい入居者も決まり、今後は、市営住宅の適正で効率的な維持管理に努めてまいります。

道路・交通の整備について

上対策事業」を引き続き推進してまいります。

景観の形成については、真壁地区の100を超える登録文化財を有する真壁のまち並み・国道50号線沿いの石彫を配した石匠のみち・大和地区の自然豊かな農村景観など多様な景観資源があり、地域特性を活かした良好な都市景観の形成を図るための方策を検討してまいります。景観形成のひとつとして、石匠のみちの電線地中化をはじめ、岩瀬駅前、真壁のまち並みの電線地中化も推進してまいります。

資源循環のしくみづくりについては、循環型社会の形成を目指した3R (Reduce、Reuse、Recycle)の推進について、市民の皆様や事業者の理解と協力のもと、家庭からの排出抑制と分別収集のサイクル事業を推進してまいります。また、日本一きれいなまちを推進していくために、職員自ら地域における月一度の清掃活動を継続してまいります。さらに、市民の皆様へと輪をひろげ、学校教育や生涯学習などを通して環境美化や地球温暖化対策に対す



桜川市には「桜川のサクラ」「雨引観音」や「真壁のまち並み」など歴史・文化そして豊かな自然環境を数多く有しています。北関東自動車桜川・筑西IC(チェンジ)が開設することから、通過点に止めないためにも、観光客が訪れる誘導策を講じるとともに、桜川市の知名度アップに繋がる方策を検討してまいります。  
【写真／今年の「真壁のひまつり」も多くの人で賑わいました。】

る意識の高揚を図ってまいります。

### 魅力と活力のある産業社会づくり

農林業の振興については、我が国の食料自給率は、40%を割り込み、自給率向上に向けた取組が、食料安保の観点から喫緊の課題となっております。安全で安定的に食料を供給するための生産の維持・拡大を図るとともに、高収益・高付加価値型農林業の展開と併せて地産地消の推進も含めた、販売促進対策に取り組む必要性があります。また、農業を支える新規就農者の確保・育成などの担い手対策や潤いのある個性豊かな農村空間の創造など、農林業・農村の魅力を支えに高める諸施策を推進してまいります。

次に、工業の振興についてですが、本市は、北関東自動車道の開通により、国際物流特区の地域指定もされていることから、地の利を活かした施策を講じ、インターチェンジ周辺をはじめとした地域に、地元雇用型の優良企業の誘致に積極的に取り組んでまいります。また、地場産業で

は、1級市道については、国・県の補助などを活用し、年次計画に沿って順次進めてまいります。住民の要望が多い集落道の整備についても、事業の必要性・緊急性などを精査し、優先順位を付け整備してまいります。北関東自動車道 桜川・筑西ICの開通と合わせ、接道する国道50号と県道 東山田・岩瀬線も整備され、東西地区の玄関口として、交通の要衝となつてまいります。また、主要地方道つくば・益子線バイパスの大曽根・本木線整備事業につきましては、地権者の同意を取り付ける努力を重ね、鋭意進めてまいります。公共交通システムについては、既存路線バスの撤退、また、人口減少と高齢化社会の到来をにらみ、移動制約者の足の確保と交通空白地域の解消などを図るため、「デマンド型乗合タクシー」を本年4月から導入いたしました。

下水道の整備については、公共下水道は、全体計画に基づき、管渠整備を進めてまいりました。真壁、大和に続き、岩瀬地区の市街地まで供用開始となつてまいりましたが、

ある石材業については、国際的な価格競争などにより経営内容は、大変厳しい状況にあると思われれます。本地域が持っている、長年積み重ねた石材加工の技術力と開発力を活かしながら、新分野への進出を視野に入れ、各種石製品のPRイベント開催や販路拡大を推進し、さらに伝統工芸品などのブランド化を高め、石材業の活性化に努めてまいります。

商業の振興については、自治金融制度などの金融支援を効果的に活用しながら経営体制の改善と近代化に努めるとともに、商工会と連携を図り商業の活性化に向けて取り組んでまいります。

観光の振興については、本市は「桜川のサクラ」「雨引観音」や「真壁のまち並み」など歴史・文化そして豊かな自然環境を数多く有しています。北関東自動車 桜川・筑西ICが開設することから、通過点に止めないためにも、観光客が訪れる誘導策を講じるとともに、本市の知名度アップに繋がる方策を検討してまいります。

新産業の振興については、

加入率が低く健全な事業運営に支障をきたす現状となっております。下水道事業は、長い事業期間と膨大な費用が発生することから、効率的な事業推進の観点から、下水道事業の全体計画の見直しを図るとともに、加入促進にも努めてまいります。公共下水道認可区域外と農業集落排水事業区域外においては、市設置型の合併処理浄化槽の普及を図ってまいります。

上水道については、平成20年度から水道事業会計が一本化されました。安全で良質な水道水の安定的供給を図るため、老朽管・石綿管などの更新を図りながら、収入の確保、さらに公営企業としての経営の効率化および健全化に努めてまいります。

今、全国の集落で高齢化や混在化が進行して、農地や農業用水などの資源を守る地域の「まとまり」が弱まっている中、良好な農村環境の形成や環境を重視した農業生産への取り組みが求められています。その一環として、農地・水・環境の良好な保全と質的向上を図る地域共同の取組を支援する「農地・水・環境保全向

平成18年度に経済産業省の市町村産業振興ビジョン調査モデル事業として、地域経済・産業の現状、今後の見通しなど、具体的な取組みを含む、産業振興のあり方を検討してまいりました。また、本市と常磐大学は、相互の連携と協力により、地域課題に迅速にかつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与するため、昨年12月、連携協力協定を締結いたしました。今後は、この協定に基づき、地域の発展や人材育成、共同事業の展開など、あらゆる分野における連携協力を図り、新しい産業の振興にも役立つよう努めてまいります。

最後になりますが、地域間競争に勝ち抜くためにも、全職員が高いこころざしと英知を発揮し、行財政改革を一層推進していかねければならぬと考えており、また、今年から職員に実践してもらおうテーマを日々改善即実行とし、一丸となって全力投球してまいりますので、市民の皆様には、ご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。